

はじめに

場長 崎 山 憲 一

水産試験場の漁業調査船(初代)「くろしお」は昭和41年8月に糸満造船所で建造された21.44トンの木造船である。以来14ヶ年の間、各種の漁業試験や漁場の調査に従事して来たのであるが、このたび代船として(2代目)「くろしお」—FRP製34.82トン—が新しく東九州造船所の手で建造され就航する運びとなったので、現在の「くろしお」は第一線から引退することになった。これを機会に「くろしお」の歩んできた道をふり返ってみることにした。

これまで「くろしお」に関係してきた職員達によって、いくつかのトピックスを含めて紹介されるが、まずはじめに特筆したいことはこの船が14ヶ年の間全く無事故で頑張ってきたことである、乗組員全員ならびに各研究員の「和」と「協力」に対して改めて敬意を表したい。

運航の実績をみると、就航以来復帰を迎えるころまでのいわゆる琉球政府の時代には各種の漁業調査を主体に活動してきた。特にカツオの餌に関する調査・深海ザメに関する調査・トビイカ漁場調査・底延縄試験等に従事した回数が多く、昭和46年から47年にかけてはマス網漁業試験に主力を注いでいる、今日沿岸各地にみられる小型定置網漁業の隆盛ぶりをみると感慨深いものがある。

復帰後は漁場整備に関する国庫支出の増大に伴い、魚礁適地調査に従事する回数が急速に増えて来ているし、さらに全国の水産試験場と足並みを揃えて沖合沿岸における水産資源調査、漁況・海況等の調査を精力的に行なっているところである。

このように復帰の前後にかけて激動する沖縄の水産業とともに歩みつづけた「くろしお」は、無事大任を果たして新しい船にその任務を引き継ぐことになったのである。長い間ごくろうさん……………。

代船の(2代目)「くろしお」は最新の技術でもって、かつ丹念に造られた優秀な船である。装備している機器類も人工衛星航法装置、カラー魚探をはじめ近代科学の粋を集めた調査機器であり、さらに各種の漁ろう装置も搭載している。沖縄県の水産業発展のために充分にその能力を発揮するよう期待し、皆様の御支援御協力を切に願います次第である。